

公募制推薦入学試験 〈基礎学力テスト型〉

2027年度は総合型選抜入学試験〈基礎学力テスト型〉として実施

国語

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語については、注を参照しなさい。

日常生活の「礼」法^①の在り方とかかわって、日常の「お中元」とか「お歳暮」を、すべて「虚礼」として非難、排斥する意があるが、これをどう思うか、という問題が出てくる。おなじ理窟で、年賀状や暑中見舞なども、虚礼だとして廃止を唱える声がないではない。このことを、どう考えるか。

私自身は、こうした小賢しげな意見に反対だ。――はつきり反対である上に、こういった類の「道理」主義には、心理的な抵抗をつよ感する。正確には、この種の合理主義「者」の発想に反撥を覚えるというべきかも知れない。盆暮の贈答や年賀状、暑中見舞を虚礼呼ばわりするような人に限って――限って、といってしまえば餘見に過ぎるとすれば――のような人の多くが、バースデイレゼントとかクリスマスカードとなるや、決して虚礼だとはいわないからだ。

C、自国の旧くからの習慣に関しては、その存在意味を深く考えることもなく、とかく反対をいう人に限って――また、限ってといってしまった――外来の、横文字の、カタカナで書かれた風習には、文句なく屈服する。そういう傾向が、明治近代以前の日本には、抜きがたく存在すると思うからである。

だが、それはともかく、もっと根本的あるいは根源的に反対である根拠は、いったい虚礼でないような「礼」というものがあるだろうかというのが、D 私の持論だからである。礼とは、つきつめれば、煎じつめれば、常にことごとく虚礼ではないだろうか。

近隣の人、知人と路上にすれちがって、互いに「よいお天気で……」といったり、「はつきりしませんネ」と声をかけ合う。お

天気がいいのに、どうして「よいお天気で……」と、わざわざいわねばならぬのか。空が曇っていれば、「はつきりしない」にきまつているではないか。こんな意味な挨拶こそ、正しく「虚礼」以外の何ものでもないではないか。

朝、顔を合わせて「おはよう」といふ合、食卓に向かかって「いただきます」といふ、食べ終って「ごちそうさま」といふ。外出か帰ってきて「ただいま」といふ、迎えた方は「おかえりなさい」といふ。親子、夫婦、兄弟、もともと親しい間柄で、何もいちいち、こんなわかりきったセリフを、朝に晩にくりかえす要があるというのか、それこそ虚礼じゃないか。

ところが、他方、たとえば新聞の投書欄などで、近頃のタクシーの運転手は、行先を告げても、ろくに返事もしない、無愛想である、乗っていて不安で仕方がない、といった苦情や非難をよく見かける。メーター代の値上げの時などは、マスコミ自体「サービス向上は掛け声ばかりか」といった筆誅を加える。

だが仮りに、料金を受け取った運転手が、「ありがとうございます」と礼をいっただけとしたら、その時「や、ごめんなさい」とか「お世話さま」とか、簡単なねぎらいの言葉を、運転手に向かって返す客が何人いるだろうか――このことは、ぜひ一度、当の運転手諸氏に尋ねてみたいものだと思ふ。

指示された場所へ、指示されたとおりに送って、規定通りの料金を貰うのに、どうして「ありがとうございます」などと礼をいわねばならぬのか。と運転手がいい、客を運ぶのを商売にして、それで毎日のメシを食っている運転手に、きめられた通りの運賃を支払ったその上、どうして「ごめんなさい」の「お世話さま」のと、ねぎらいの言葉をかけねばならぬのか――と、両者がこう真つ向うからいい合えば、理窟としては、言い分としては、その限り両者とも正しい。少なくとも、まちがっているとはいえない。

だが、そんなふうで、人間社会・人間関係はうまくゆくのだろうか。人間性とは礼儀作法にはじまる、といったというキクロの言葉を思い出すまでもなからう。礼儀作法とは、常に多少とも――いや、ひょっとしたら、多少ともではなく、まるつきり「虚礼」なのかも知れないのである。虚礼であるからこそ、一方でこれを虚礼とし、一つの約束ごと、一つの型と承知の上、だから他

—国2—

—国1—

国語

方では、あまりに煩瑣な形式主義過剰の儀礼に陥らずにゆく「心得」が肝腎なのだ。約束無視、ルール抜き、型なしと、めんどろでしかつめらしい煩瑣主義との「中間」、つまり、あの「日常の礼法」がおのずと守られている人間関係・人間生活が、ヒューマニズムの名で呼ばれる時代社会ということになるのではなからうか。極端な形式主義が、「反」人間的であるように、約束ことなしの人間関係も同様「非」人間的というほかない。

このことに関連して、私がいつも滑稽に思えて仕方ないことは、よくホテルなどでやっているテーブルマナーの講習会といった類の催しだ。ずいぶん高い講習料を払って、若い人たちが「実習」に集まってくるらしい。主催者の側からいえば、モトがとれるどころか、結構儲かる企画らしいのである。

E、食事の作法などといったものは、どこの国へいったって、基本的にはそう変わるものではない。要するに食卓に正対して姿勢を正す、飲んだり食べたりする際に、大きな音をたてたり、大声で怒鳴ったりしない、口のなかに食べものをいっばい含んで、これを囁み囁み話をしたりしない――ぐらいを心得ていれば、それだけで十分、ナイフやフォークを万一同りがえれば、そんなことはボーイが適当に処理して取り換えてくれるはずだし、どうしても食べ方のわからぬ料理が出てきたら、その場で給仕に尋ねたつて、少しも恥にはならない。何も高い講習料を払って、わざわざ習いにゆかねばならぬようなことは一つもないのである。それよりも大切なのは、日常普段の食事時の心がけだ、と私は思う。

（安田 武「手紙の書き方」二型と日本文化）

注

*「礼法」………礼儀・作法のやり方やまじり。

*キクロ………マルクス・トクリウス・キクロ前一〇六―前四三、古代ローマの政治家・哲学者。

問1 空欄 A E にはいる語として、もつとも適切なものをそれぞれ次の中から選び、その記号をマークしなさい。ただし、一つの語は一度しか使わないこととする。解答番号は A 1 B 2 C 3 D 4 E 5

ア かし イ つまり ウ かねがね エ たえは オ というのは

問2 排斥^①の意味として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 6

ア 行者を処罰する
イ 価値を認めない
ウ 受け入れずに退ける
エ 正しい形に直す
オ 考えを改めさせる

—国4—

—国3—

国語

問3

② 意見があるが、を品詞に分解したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は7

- ア 名詞―助詞―助動詞
イ 名詞―助詞―助動詞
ウ 動詞―副詞―名詞―助詞
エ 動詞―副詞―名詞―助動詞
オ 名詞―副詞―名詞―助動詞

問4

③ 小賢しげの「賢」の読みと同じ読みを含むものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は8

- ア 上り坂 イ 健康 ウ 畏まる エ 難しい オ 考え方

—国5—

国語

問7

⑤ 明治近代以前の日本とあるが、以下は出題文章内のコラムに掲載されていた文章である。これについて、続く(一)～(三)の問いに答えなさい。

✕ 荷風の書状

押覆陳者三月々末御送下され候お手紙及三月一日御送りの御蔵書目録いづれも拝受仕候美ハ私儀去二月中旬より風邪及神経痛宜敷からず病臥致居り今以て全快致さず其為御返事も致し得ず失礼の段申訳無御座候其中当月中には病氣も快方に向く事と存じ候へども何分にも失礼の段御許下され度懇願致候先はおわびのみ 勿々頓首

三月五日

鷺津克己様

✕ 杜吉

この手紙は、荷風全集(岩波版 第一十五巻 書簡集の一番最後に収録されている。昭和二十四年の三月五日付だから、市川の仮寓で、ただひとり急死した四月二十日から、潮ること五十余日のことになる。

『おかめ笹』『澤東錦譚』他、数え切れぬ傑作を残し、明治、大正、昭和三代にまたがる大文豪、また奇行、奇癖の人として、さまざまな話題を撒いた文人だが、全集に収録されたかなりの数の書簡は、この最後にも明らかなどおり、☐であって、贈られた書物などには、いちいち丁寧な礼状を書き送っている。一体に、明治の人は、そうした儀礼において正しかったが、荷風も性格的には、本来、よほど儀礼に几帳面であつたと思われる。

—国7—

問5

④ 「合理」主義について、ここの「」の機能を説明したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は9

- ア 前の箇所です既に論証したことの引用であることを示す
イ 会話や心内での発話をそのまま再現したことを示す
ウ 筆者が価値判断を留保している概念であることを示す
エ 一般的に馴染みのない、新しい概念であることを示す
オ 疑念を差しはさむ余地のない普遍的な真理であることを示す

問6

⑤ まだ、「限って」といつてしまった について、ここの筆者の考えとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は10

- ア 「限って」という同じ表現を繰り返し使うのは書き手として望ましくない
イ 「限って」という表現自体に解見の意味はないのだから、非難されるいわれはない
ウ 「限って」と表現せざるを得ないのが現代社会であり、それが非常に残念である
エ 「限って」という表現するのは本意ではなく、本当に伝えたいことは別にある
オ 「限って」という表現に、前に述べた通りの問題があることは自覚している

—国6—

国語

問7

⑤ 明治近代以前の日本とあるが、以下は出題文章内のコラムに掲載されていた文章である。これについて、続く(一)～(三)の問いに答えなさい。

✕ 荷風の書状

押覆陳者三月々末御送下され候お手紙及三月一日御送りの御蔵書目録いづれも拝受仕候美ハ私儀去二月中旬より風邪及神経痛宜敷からず病臥致居り今以て全快致さず其為御返事も致し得ず失礼の段申訳無御座候其中当月中には病氣も快方に向く事と存じ候へども何分にも失礼の段御許下され度懇願致候先はおわびのみ 勿々頓首

三月五日

鷺津克己様

✕ 杜吉

この手紙は、荷風全集(岩波版 第一十五巻 書簡集の一番最後に収録されている。昭和二十四年の三月五日付だから、市川の仮寓で、ただひとり急死した四月二十日から、潮ること五十余日のことになる。

『おかめ笹』『澤東錦譚』他、数え切れぬ傑作を残し、明治、大正、昭和三代にまたがる大文豪、また奇行、奇癖の人として、さまざまな話題を撒いた文人だが、全集に収録されたかなりの数の書簡は、この最後にも明らかなどおり、☐であって、贈られた書物などには、いちいち丁寧な礼状を書き送っている。一体に、明治の人は、そうした儀礼において正しかったが、荷風も性格的には、本来、よほど儀礼に几帳面であつたと思われる。

(二)

空欄 ☐ はすべて同一人物で、文学者の姓がはいる。もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は12

- ア 尾崎 イ 志賀 ウ 葛西 エ 永井 オ 坪内

—国8—

(二)

押覆 ☐ とあるが、これは手紙の書き出しとしてどのような場合に使われるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は11

- ア 時候の挨拶など、前文を省略する場合
イ 面識のない相手に初めて手紙を出す場合
ウ 受け取った手紙に返信する場合
エ 返事のない相手に、再度手紙を送る場合
オ 虚礼を省き、急用であることを伝える場合

国語

(二) 空欄 Y にはいる評価として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。

解答番号は 13

- ア 尋常かつ甚だ几帳面
- イ 自由かつ甚だ奔放
- ウ 大胆かつ甚だ高圧的
- エ 異色かつ甚だ奇抜
- オ 古風かつ甚だ非常識

— 国 9 —

国語

問 9 それこそ虚礼じやないか」とあるが、なぜこれらは「虚礼」といえるのか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 15

- ア 事実や本心と異なるから
- イ あらためて言語化する必要もない内容だから
- ウ 強制されて言うことだから
- エ 自国の旧くからの習慣に根差しているから
- オ できれば避けたい、面倒な会話だから

— 国 11 —

問 10

問者がこう真つ向うからいい合えば」とあるが、その結果は、理論上どうなると考えられるか、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 16

- ア 運転手が礼を言うことを強制されるようになる
- イ 客がねぎらいの言葉をかけることを強制されるようになる
- ウ 運転手は礼を、客はねぎらいの言葉をそれぞれ強制されるようになる
- エ 運転手も客も、礼もねぎらいの言葉もなく乗り降りすることになる
- オ 運転手と客の間で常に主張が食い違い、争いが絶えないことになる

— 国 12 —

問 8

それはともかく」とあるが、筆者の考えとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 14

- ア 盆暮の贈答や年賀状・暑中見舞は虚礼であるが、バースデイプレゼントやクリスマスカードは虚礼ではない
- イ バースデイプレゼントやクリスマスカードの方こそが虚礼であり、盆暮の贈答や年賀状・暑中見舞は虚礼ではない
- ウ 盆暮の贈答や年賀状・暑中見舞を虚礼とするなら、バースデイプレゼントやクリスマスカードまで、すべてが虚礼である
- エ 盆暮の贈答や年賀状・暑中見舞からバースデイプレゼントやクリスマスカードまで、虚礼などというものは一つもない
- オ 盆暮の贈答や年賀状・暑中見舞、バースデイプレゼントやクリスマスカードが虚礼になるかどうかは、贈る人の気持ち次第である

— 国 10 —

問 11

そんなふうで、人間社会・人間関係はうまくゆくのだろうか」とあるが、「そんなふう」になった人間社会・人間関係はどのようなものになると筆者は考えているか、本文中から抜き出したものとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。 解答番号は 17

- ア 形式主義
- イ 煩瑣主義
- ウ 時代社会
- エ 「区」人間的
- オ 「区」人間的

国語

国語

国語

問 12

礼儀作法^⑩ とあるが、筆者の礼儀作法に対する考え方を述べたものとして、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 18

- ア 礼儀作法とはそもそも虚礼であるからそれに縛られすぎてはならないが、そのような虚礼が人間関係を円滑にしている側面がある
- イ 虚礼の側面を含むのが礼儀作法というものであるが、まるっきり虚礼になってしまわないように、虚礼と虚礼でないものの中間を目指すべきである
- ウ 「日常の礼法」を守られる時代社会を乗り越えるためには、形式主義過剰の儀礼に陥らず、虚礼を廃していく姿勢が必要である
- エ 約束無視、ルール抜き、型なしと、煩瑣主義との中間に立つことによって、虚礼ではない、真の礼儀作法が生まみ出される
- オ 礼儀作法は人間性の原点であるというキケロのような考え方から脱却し、虚礼に過ぎないことを認めることが、現代社会での礼儀作法の出発点となる

— 国 13 —

問 13

滑稽^⑪に思えて仕方ない とあるが、それはなぜか、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 19

- ア 「人間性とは礼儀作法にはじまる」といまだに信じられていることがわかるから
- イ 「あまりに煩瑣な形式主義過剰の儀礼」に陥った例にあたるから
- ウ 「約束無視、ルール抜き、型なし」が広まった結果だと評されるから
- エ 「モトがとれるどころか、結構儲かる」という実利性が礼法の精神にそぐわないから
- オ 「食卓に正対して姿勢を正す」というあたりまえのこともできない人がいるから

— 国 14 —

国語